

今月の御教え

どの宗教を信じていてもくさすことはない。みな、天地の神のいとし子である。あれこれと宗教が分かれているのは、たとえば同じ親が生んでも、大工になる子もいれば左官になる子もあり、ばくちを打つ子もあり、商売好きなきな子もあるというようなものである。宗教が分かれているといっても、人はみな神の子で、それぞれに分かれているのである。そばの好きな者や、うどんの好きな者があり、私はこれが好きだ、わしはこれが好きだと言って、みな好き好きで成り立っているのであるから、くさすことはない。

……「天地は語る」第五十三条……

解説

宗教には往々にして「わが信じる神・仏を信仰する者は救われるが、信仰しないものは救われない」と思い込む傾向があります。古来、世界に於いて悲惨な争いが続いていることが明け暮れた歴史があり、今なお世界の各地に於いて悲惨な争いが続いていることが少なくありません。しかし金光教祖・金光大神様は「我が信じる神ばかり尊びて、他の神を侮ることなかれ」と教えられています。それはこの金光大神の信ずる天地金乃神様は、私達人間すべてを、神の氏子と見なし慈しんでおられ、他宗の宗祖・開祖方もみな天地の親神様の氏子であるから尊重せねばならぬとの思いであります。正に天地を司る「天地金乃神様」を頂く金光教祖・金光大神様ならではの広大無辺の教えであります。